

平成 29 年度 第 1 回 稲城市姉妹都市・友好都市交流協会設立準備会
議事録 【要点記録】

【開催日時】平成 29 年 9 月 7 日（木） 午後 7 時から 9 時

【会 場】稲城消防署 3 階 消防署講堂

【出席者】■委員；出席者 12 人

- ・ 稲城市商工会（伊原 勇氏）
- ・ 稲城市教育委員会（城所 正彦氏）
- ・ 稲城市青少年育成地区委員会正副委員長会（石橋 良生氏）
- ・ 稲城国際交流の会（藤田 佑二氏）
- ・ 東京稲城ロータリークラブ（向井 俊右氏）
- ・ 稲城青年会議所（中村 燈氏）
- ・ NPO 法人市民活動サポートセンターいなぎ（角田 享氏）
- ・ 平成 28 年度海外姉妹都市検討市民会議 公募市民（原 忠男氏）
- ・ 公募市民（田付 春生氏）
- ・ 公募市民（田中 節子氏）
- ・ 公募市民（藤島 亮子氏）
- ・ 公募市民（小沢 重郎氏）

<欠席>稲城市芸術文化団体連合会（桂田 良子氏）、
稲城市立学校 PTA 連合会（下田 治幸氏）

■行政

- ・ 稲城市長（高橋 勝浩）
- ・ 事務局 5 人（企画部長（武藤 路弘）、企画政策課長（柴田 光洋）、
市民協働課長（笠松 和子）、企画政策課計画調整担当係長（井田 聡）、
企画政策課主事（新津 伸偉）

【次第 1】開会及び市長挨拶

井田 係長：本日はお忙しい中、また、夜分遅くにお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。定刻になりましたので、平成 29 年度第 1 回稲城市姉妹都市・友好都市交流協会設立準備会を開催いたします。本日、委員長が決まるまでの司会を務めさせていただきます、企画政策課計画調整担当係長の井田と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日は、ご欠席の連絡をいただいている方がおりますのでご報告させていただきます。稲城市芸術文化団体連合会の桂田委員、そして、稲城市立学校 PTA 連合会の下田委員、以上お二人からご欠席のご連絡をいただいております。ご欠席が 2 名、ご出席の委員の方が 12 名になりますので稲城市姉妹都市・友好都市交流協会設立準備会設置要綱の規定により過半数の委員の出席がございますのでこの会が成立していることをご報告いたします。

また、本会議は、原則公開でありますので、傍聴の方がいらっしゃる場合がありますことをお知らせいたします。詳細につきましては、後ほど、次第の中でご説明いたします。

まず初めに、議題に入る前に、高橋市長よりご挨拶を申し上げます。市長、よろしくお願いたします。

高橋市長：皆さん、こんばんは。お忙しいなか大変多くの方にご参加をいただきありがとうございます。ありがとうございました。

姉妹都市・友好都市交流協会設立準備会ということで開催させていただきましたが、その前の海外姉妹都市検討市民会議から引き続き委員になっていただいた方、大変ありがとうございます。そして、後ほど紹介ありますが、今回、市民公募として4名の方に新たにご参加いただき、新しく仕切り直しということでよろしくお願いたします。

さて、この会の趣旨につきましては、就任にあたり事務局のほうからお話があったと思いますけれども、平成27、28年度の2カ年度をかけて海外の姉妹都市交流、これについてどのようにしたら良いかということで検討いただき、相手方の候補を含め、提言書として今年の1月に私の方にご提言いただいたところであります。その海外姉妹都市の検討の過程において、また、提言書の中にもご意見としてありますが、今後、海外の姉妹都市のみならず国内の姉妹都市・友好都市も含めて、市民レベル、市民主体での交流さらに進めていくための母体を作るべきではないかというご意見をいただきました。改めて、海外の姉妹都市のみならず国内の姉妹都市・友好都市も含めて、色々なところとどのように交流していけば良いのか、交流協会を作るとすればその内容や組織はどうしたらいいを含め、ゼロベースでご議論いただくため、今回の準備会をつくらせていただきました。このような形でございますので、自由闊達に、また、特に期限というものをご区切っていないので時間をかけてゆっくりご議論いただければありがたいと思っております。

姉妹都市・友好都市について若干ご説明したいと思います。稲城市は平成3年に北海道の女満別町と姉妹都市を結びました。姉妹都市を結んだのが平成3年ですから、その前はあまり他地域との交流というのがなかったようですが、女満別町とはもともと子ども達の教育交流が主体でスタートしたと聞いております。子どもたちのいわゆる国内留学、ホームステイでやり取りをするそういった関係、また、稲城市内に女満別町出身の画家の先生が住んでいらした、そのようなお付き合いもあって、平成3年に女満別町と姉妹都市を締結いたしました。その後、女満別町は隣の東藻琴村と合併をして、現在は大空町となっています。女満別空港という国際空港がある町でございますけれども、その空港がある関係で大空町となり合併いたしました。その大空町と今も姉妹都市を提携しております。

一方で、私が市長になった平成23年度以降、東日本大震災など色々な関係でお付き合いをする町が増えてまいりました。福島県の相馬市については、震災の2日後から稲城市から職員を派遣して、東日本大震災の復興支援を行ってきたわけですが、当初、広域での災害時の応援協定を結ぼうということで、平成23年6月に災害時等相互応援協定を締結して、現在も職員派遣をしているところです。災害対応というのはいずれ復興・復興が終わればそこでお付き合いが終わるのですが、せっかくこうしたご縁があって福島県相馬市とお付き合いさせていただいたわけですから、復興が完了してからも将来にわたり市民交流が出来たら良いなと思い、一昨年の8月に福島県相馬市と友好都市協定を結ばせていただきました。

また、長野県野沢温泉村については、以前から稲城の小中学校の児童生徒がキャンプやスキー教室などで交流を深めていたものですが、約10年の子ども達のお付き合いの中で、「是非、小学生、中学生のみならず、一般の市民を含めて交流を拡大したい」という友好都市の申し出が野沢温泉村の村長さんからありまして、一昨年の11月に友好都市の協定を結ばせていただきました。

さらには、海外のフォスターシティ市からも「是非、稲城と姉妹都市を」という話があり、こちらは市民会議で結論を出していただきましたが、海外の姉妹都市ということで、まだ姉妹都市の協定は結べていませんが、こういった話があるということです。

そういった中では国内の姉妹都市・友好都市、海外の姉妹都市を含めて交流を深めていきたいということがあります。ただし、大空町、当時の女満別町について言えば、協定を結んだ当初は、例えば農業の後継者育成として若い農業者の交流事業をやろう、芸術文化団体連合会で色々な交流をしようというように、比較的行政主導で盛り上がるのですが、やや時間が経つと、こういう言い方は良くないのですがネタ切れになってやや縁遠くなることがあります。細く長くお付き合いをしていくためには、行政主導のみならず、やはり市民が主体となって広範に色々なお付き合いをしていくことが必要なことであろうと思います。

そういった意味で、今回、市民主体の交流協会を立ち上げた方が良いのではないかと思います、あり方を皆様にご議論いただきたいということがございます。ちなみに、昨年、野沢温泉村が村制施行60周年ということで、大変大きな記念式典が開催され、私もそこにお呼ばれをしました。野沢温泉村はオーストリアのサンクト・アントン村というところと姉妹都市を結んでいます。野沢温泉村はスキーの歴史が長い人口4000人に満たない村であり、一方、オーストリアのサンクト・アントン村は人口2000人くらいの村ですが、スキーの来場者は年間何百万人にもなり、スキーの来場者数から見れば野沢温泉村をはるかに凌ぐ規模となっています。また、野沢温泉村は千葉県の御宿町と国内の姉妹都市を結んでおり、こちらは山と海のつながりで、お互いにないところを子どもたちが交流しています。記念式典では、姉妹都市・友好都市であるサンクト・アントン村の村長さん、御宿町の町長さん、そして私がテーブルで話をしまして、友達の友達はみんな友達だからということで、またそのような関係でお付き合いできたら面白いと話していました。このような交流を広げていくことはとても大切なのではないかと思います。また、行政の仕事として事業化していってしまうと形式ばったり、面白くなかったり、義務的な予算を付けて毎年同じことをするだけになりやすいということがあります。冒頭にお話したように、できれば細く長く、一発花火でドーンと予算つけて大きな事業をやるのではなく、地道に交流をしていくことがこういう事業の本旨になると思います。そういったことも踏まえて単に今ある交流相手のみならず、その相手方の姉妹都市・友好都市までも巻きこむことが出来ると非常に有意義な交流につながっていく、そういった可能性も秘めているというように思っているわけでありまして。

そういった意味でゼロベースでと申し上げましたが、条件を決めてこういう形でということではなく、交流協会はどのようなあり方が良いのかを皆様に関連な意見を出していただきまして進めていけたらと思っております。よろしくお願ひします。

なお、フォスターシティ市自体は締結に向けて交流を深めているわけですが、現在、行政の交流に先んじてロータリークラブ様が交流に向けて検討を進めていただいているところをごさいますて、市民レベルの交流が検討されているところでもあります。そのようなどころでご報告をさせていただきました。

それでは、皆さま今後ともどうぞよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

井田係長：ありがとうございました。続きまして、配布資料の確認をさせていただきます。本日お手元に配布しておりますものは、8点になります。

①委嘱状

②本会議の次第

③資料1：平成29年度稲城市姉妹都市・友好都市交流協会設立準備会 名簿

④資料2：稲城市姉妹都市・友好都市交流協会設立準備会設置要綱

⑤資料3：姉妹都市・友好都市交流協会設立準備会 概要

⑥資料4：平成29年度稲城市姉妹都市・友好都市交流協会設立準備会について（案）

⑦資料5：海外姉妹都市の提携について（提言）

⑧座席表

こちら、委嘱状以外の資料につきましては、傍聴される方が、いらっしゃった場合にも同じ資料をお配りいたしますのでご了承いただければと思います。過不足等はありませんでしょうか。

【次第2】委嘱状の交付

井田係長：それでは、次第2『委嘱状の交付』に移らせていただきます。

委嘱状につきましては、大変恐縮ではございますが、机上配布とさせていただきます。任期は本日から提言の日までとなっておりますので、どうぞ、よろしくお願いいたします。

【次第3】自己紹介

井田係長：続きまして、次第の3『自己紹介』に入らせていただきます。大変恐縮ではございますが、順番に、一言ずつ、簡単に自己紹介をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員：皆さまこんばんは。青少年育成地区委員会東長沼地区所属の石橋です。平成27年度に東長沼地区委員会が委員長の役割を務めておりまして、その関係で今回地区委員会正副委員長会の代表ということで参加させていただいています。どうぞよろしくお願いいたします。平成27年度の会議から参加させていただいています。皆さまのお気持ちとかそういったところを汲んで、申し上げることがありましたら伝えさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

委員：皆さまこんばんは。稲城市商工会の代表ということで参加させていただきます、伊原でございます。よろしくお願いいたします。

委員：若葉台に住んでおります小沢です。間もなく引っ越して11年になります。サラリーマンの時は、総合商社に勤めており、アメリカ、アフリカ、ヨーロッパとあちこちに出張して

いました。個人的にも海外旅行を家内と楽しんでいます。今まで35カ国くらい行きました。6年ほど前に研修を受け、海外旅行の添乗員の資格を取りました。また、趣味で歌を歌っており、「コールヴェルディ」という男声合唱団を私が立ち上げました。以前は、府中市に住んでおり、府中市がウィーン市のヘルナルス区と姉妹都市提携をしている関係で、合唱団を作って、向こうに交流に行った経験もあるので、何かお役に立てるかと思ひ応募しました。よろしく願いいたします。

委員：NPO法人市民活動サポートセンターいなぎの理事長をしております角田と申します。このサポートセンター稲城は稲城市地域振興プラザの建物の管理・運営並びに市民活動の支援、また、Iのまちいなぎ市民祭のふれあい部門ということで、例えば和太鼓のコンテストや楽しく第九を歌う合唱団のような部門を含めまして、指定管理者として業務を受けているところです。そういったことで、市民活動全般に関わっているということでお声がかかっていると思っています。よろしく願いいたします。

委員：稲城市教育委員会教育委員の城所と申します。私も平成27年度の海外姉妹都市提携検討委員会から2年間、そして今回も引き続き委員となりました。教育委員の立場ですと、やはり教育交流ということになるのですが、教育委員会は生涯学習もありますので、そういった部分も含め活発な交流が出来ることを期待して汗を流したいと思います。よろしく願いいたします。

委員：こんばんは。田付です。私もリタイアしまして第二の人生を楽しんでいるのですが、現役のときは某自動車会社に勤めていて、英語は話せないのですが、アメリカのオハイオ州に4年間いました。その後、中国にも4年間行っていました。それ以外にも、技術屋でしたので海外に工場を立ち上げる仕事で、海外の拠点となっている工場を15カ国ほど行ったり来たりしており、その都度、現地の文化に親しんできました。是非、この機会に何かお役に立てればと思ひ応募させていただきました。よろしく願いいたします。

委員：田中と申します。この3月まで東京都庁の生活文化局の中にある外国人相談で30年間英語相談を担当していました。仕事以外にもAFSという高校留学制度のボランティアとしてホストファミリーをしたり、リエゾンパーソンという生徒とホストスクールとホストファミリーの間の調整役をお手伝いさせていただいています。なお、AFSの高校留学制度はヨーロッパで100周年を迎えており、実際に交流が始まって70年、日本で受け入れて60年になります。私も、50年ほど前にAFSにお世話になったことがあり、そのお返しにお手伝いをしています。それ以外に、子どもの頃、父の仕事の関係でエジプトに住んだり、主人が転勤でアメリカに住んだりもしましたので、リタイアした後地域のお役に立てればと思ひ応募させていただきました。

委員：稲城青年会議所の今年度理事長の中村と申します。青年会議所は人づくり、まちづくり、青少年事業を行っている団体なのですが、ロータリークラブさんと同じ国際団体となっていて、国際組織もございます。青年会議所はJCといい、稲城青年会議所は姉妹JCというのを持っていないのですが、他の全国700JCは約380JCと締結しているようです。今回、フォスターシティ市についてもJCがあるか調べてみたのですが、インターネットでは見つからず、もう少し探してみたいと思います。例えば、大空町にもJCはなくて網走JCの方に参加をされているようですのでJCとしましてもフォスターシティ市

と提携が決まりましたら、そこに住んでいる J C メンバーの方と交流ができたらと考えております。よろしくお願いいたします。

委員：原と申します。私は、平成 28 年度海外姉妹都市検討市民会議に公募でメンバーにならせていただき、今回も引き続きやらせていただくこととなります。2003 年に稲城市に参りまして 14 年経つのですが、最近になって地元の皆様方と色々とお付き合いさせていただくようになりました。驚いたのはずいぶん祭が多いところだなということです。市長が祭が好きなのかと思いますが、ものすごい数のイベントがあります。この交流協会にも、そういう祭の文化芸能の面から上手くやっていき、堅苦しいことよりもワイワイ楽しく交流出来たら良いのかと思います。どのようなことをやるかについては、この準備会でこれから話すのでしょうけれども、明るく楽しく元気良くやっていきたいと思いますので、ひとつよろしくお願いいたします。

委員：一般公募の藤島です。私は稲城に来て 10 年です。元々、多摩市の出身ですが、稲城の自然が豊かなこの環境が大好きで満足して住んでいます。私自身、6 年前から財団法人ラボ国際交流センターのボランティアスタッフとして、実際に子ども達がメインなのですが、ホームステイの斡旋ですとか、自身も毎年 1 ヶ月くらいのホームステイの受け入れの経験をしていて、今年はオハイオ州の 15 歳の女の子が来ていました。自分の娘が中学 1 年生なのですが、今年初めてモンタナ州に 4 週間ホームステイの経験をしました。他にも短期ではあるのですが J A S S O（独立行政法人日本学生支援機構）や八王子高専や、桜美林等で勉強なさっている外国人の方をショートステイの受け入れをしているので、何かアイデアが浮かべばと思い応募させていただきました。よろしくお願いいたします。

委員：稲城国際交流の会の藤田と申します。去年、一昨年と三回連続でこのメンバーに入っています。海外の勤務という経験はありませんが海外旅行は興味を持って色々な国に行って、その文化等に触れ立ち会ってきたという経験はあります。稲城国際交流の会は 1991 年に設立したのですが、それからずっと会に入っており、国際化という仕事に携わってきました。今回、交流協会設立準備会ということで、市民の交流という形がメインの内容で、これからみんなでそれを発展させていくのは非常に賛成です。よろしくお願いいたします。

委員：東京稲城ロータリークラブの向井と申します。ロータリークラブという組織はアメリカのシカゴ発祥の組織、ボランティア団体ですが、私は 2017、2018 年度の会長を務めている関係でこの席に参加させていただいています。少しロータリークラブのことを申し上げれば、ロータリークラブは 5 大奉仕というのがありまして、その中に青少年奉仕、国際奉仕、職業奉仕というのがあります。それらを実践していく中で、海外との接点というのはどうしても避けては通れないと私は感じています。現在、私どものクラブは台湾林園ロータリークラブと姉妹提携をしまして、もうその歴史は 34 年になります。私どもそのような中で来年の初頭には創立 45 周年を迎えますが、台湾の方がおそらく大挙して稲城市にお見えになると思うので、国際交流というのは大変楽しいというのが特徴です。今までのロータリークラブの活動が台湾寄りになっていたところで、もう少し横文字の方も良いだろうということでフォスターシティ市のロータリークラブとの提携を模索してみようかというところではあります。ただ、残念ながらロータリークラブのサイドから言えば、私が 2 ヶ月ほど前に E メールを先方に送っておりますがそれに対するレスポンスがまだあ

りません。とりあえず待ってみようというところです。そちらの方は時間が解決すると思いますが、国際的なことから言えば、私たちどもの主催で稲城市の中学生の英語スピーチコンテストを、今年の12月15日に第4回を開催するのですが、残念ながらいま一つ盛り上がりや欠いているところです。何とか英語で考えて、英語で喋るということについてスキルアップさせたいと思っています。そのようなことや色々な思いもありますが、頭の隅に置きながら、この会の中で多少微力ではありますがお手伝いできる場所があればさせていただきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

井田係長：ありがとうございます。続きまして、事務局の紹介をいたします。企画部長の武藤でございます。

武藤部長：改めましてこんばんは。企画部長の武藤でございます。本日は夜分遅くにお集まりいただきありがとうございます。これから皆さまに十分ご議論いただいてより良い協会を立ち上げていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくご協力のほどよろしくお願いいたします。

井田係長：続きまして企画政策課長の柴田でございます。

柴田課長：事務局を務めさせていただきます企画政策課長の柴田光洋でございます。これからよろしくよろしくお願いいたします。

井田係長：市民協働課長の笠松でございます。

笠松課長：市民協働課長の笠松と申します。よろしくお願いいたします。私のところは協働課というように、市民の皆さまと協働しながら進めてまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

井田係長：企画政策課主事の新津でございます。

新津主事：企画政策課主事の新津でございます。よろしくお願いいたします。

井田係長：最後に、私は、企画政策課計画調整担当係長の井田でございます。どうぞ、よろしくお願いいたします。なお、市長は公務の都合で、ここで退席させていただきます。

<市長退席>

【次第4】稲城市姉妹都市・友好都市交流協会設立準備会設置要綱について

井田係長：続きまして、次第4『稲城市海外姉妹都市検討市民会議設置要綱について』。お手元の資料2をご覧ください。企画政策課長よりご説明をいたします。

柴田課長：お手元の資料2をご覧ください。

・第1条（目的及び設置）

稲城市海外姉妹都市検討市民会議の提言に基づき、海外姉妹都市交流及び国内の姉妹都市・友好都市交流を担う、市民が主体となった（仮称）稲城市姉妹都市・友好都市交流協会（以下「交流協会」という。）の設立に向けた検討を行うため、稲城市姉妹都市・友好都市交流協会設立準備会（以下「準備会」という。）を設置する。

・第2条（所掌事務）

準備会は、次に掲げる事項について調査及び検討し、市長に提言する。

- (1) 交流協会の事業内容に関すること。
- (2) 交流協会の組織体制に関すること。

(3) 交流協会の運営方法に関すること。

(4) 前3号に掲げるもののほか、市長が必要と認める事項

・第4条（期限）

準備会は、提言の日をもって解散する。

・第5条（委員長及び副委員長）

第2項 委員長は、委員の互選により選出し、副委員長は、委員のうちから委員長が指名する。

・第7条（報償金）

市長は、会議に出席した委員又はその代理の者に対し、予算の範囲内で定める額を報償金として支給する。

・第8条（会議の公開）

会議は、原則として公開する。ただし、委員長が準備会の議を経たときは、この限りでない。

・第15条（庶務）

準備会の庶務は、企画部企画政策課において処理する。

井田係長：何かご質問はありますか。

<質疑なし>

【次第5】委員長・副委員長の選出について

井田係長：続きまして、次第の5『委員長・副委員長の選出について』。

本市民会議の委員長は、設置要綱第5条第2項の規定により、委員の互選により選出いたします。どなたか、ご推薦いただける方はいらっしゃいますでしょうか。

委員：委員長は稲城青年会議所の中村委員が良いと思います。稲城青年会議所の理事長であり、議事進行等多数の経験もお持ちでいらっしゃいますので、中村委員が委員長として相応しいと思います。

井田係長：ありがとうございます。ただ今、中村委員を委員長としてご推薦いただけのご発言がありました。皆様、いかがでしょうか。よろしければ拍手の方をお願いしたいと思います。

<拍手多数>

井田係長：ありがとうございます。委員長は中村様をお願いしたいと思います。それでは、中村委員長は、委員長席へご移動をお願いいたします。

<中村委員長が委員長席へ>

井田係長：続きまして、副委員長の指名を行います。

設置要綱第5条第2項の規定により、副委員長は委員長による指名となっています。中村委員長より、副委員長の指名をお願いいたします。

委員長：規定により指名ということですが角田委員をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

井田係長：角田委員、いかがでしょうか。

委員：ご指名のとおりお受けいたします。

井田係長：ありがとうございます。それでは、角田委員は副委員長席へご移動をお願いいたします。

<角田副委員長が副委員長席へ>

井田係長：改めまして中村委員長と角田副委員長より、一言ずつご挨拶をお願いいたします。

委員長：ご指名いただきましたので、若輩者で拙い進行になるかもしれませんが、一生懸命頑張りますのでよろしくをお願いします。議題としましては楽しいワクワクするような内容だと思いますので闊達なご意見をいただきながら進めさせていただければと思います。どうぞよろしくをお願いいたします。

副委員長：副委員長ということで職務を全うしたいと思います。私も稲城国際交流の会の立ち上げのメンバーでもありましたので、海外姉妹都市には大変関心を持ち活動をしてきたところがございます。また、平成27年度から海外姉妹都市についての会議に参加しておりますので経過についてはある程度わかっているつもりです。先ほどご発言がありましたが、せっかくやるなら楽しくやりたい。そして、また、せっかく協会をつくるのだからこの稲城にとって、そして市民の皆さまにとって協会での活動が評価されるものがより一層出来ればと思っております。ですから大いに議論し楽しいアイデアが出せればと考えておりますのでよろしくをお願い申し上げます。

井田係長：ありがとうございました。それでは、これより先の議事の進行につきましては、委員長をお願いいたします。よろしくをお願いいたします。

【議題1】姉妹都市・友好都市交流協会設立準備会概要について

委員長：それでは、議題1『姉妹都市・友好都市交流協会設立準備会概要について』、事務局より説明をお願いします。

柴田課長：それでは、私の方からご説明差し上げます。資料3「姉妹都市・友好都市交流協会設立準備会概要」をご覧ください。

〔資料3『姉妹都市・友好都市交流協会設立準備会概要』に基づき説明〕

委員長：ありがとうございました。この概要についてご意見のある方は挙手をお願いいたします。

委員：友好都市と姉妹都市の明確な定義とは何でしょうか。

柴田課長：厳密な定義はありませんが、姉妹都市が1つあって、友好都市がたくさんあるようなイメージです。ただ、そういった部分というのは、結んだ順番とかの影響もあります。

委員：例えば、私たちのようなロータリークラブの点から言えば、姉妹なのです。というのも同じ親から生まれている兄弟なのです。何か決まりがあるのかと思ってお尋ねした次第です。

武藤部長：一般的に姉妹都市はだいたい1つと決めているところが多いです。その後に結んだところは友好都市と稲城で表現していますが明確な違いは実はありません。例えば市議会の議決が必要であるとかそのようなことも必要ありません。今、交流している内容についてはこの資料に書いてある通りで、特に姉妹都市だから、友好都市だからという違いはありません。

委員：ありがとうございました。

委員：交流の切り口は色々あると思います。ただ、実際に人の行き来がでてくると観光的な要素が非常に大事になってくると思います。その場合、受け入れ態勢が整っていないといけないと思うのですが、観光協会の設立の動きがあると聞きましたので、そのあたりの兼ね合

いはどのようになっているのでしょうか。

武藤部長：観光協会の設立については、この交流協会の設立の話とほぼ並行して動いています。今年度、設立の準備協議会というのを作りまして、来年度に観光協会を立ち上げていきたいということで今、その検討に入っているところです。まだ、具体的に観光協会の形というのは出来上がっていません。順番としては観光協会の設立の方が早いのではないかとこのように考えています。こちらの交流協会の方がもう少し時間をかけて検討していくということなので、こちらの検討の間に観光協会の形もはっきりしてきますので、交流協会と観光協会がどのような関わりが持てるのかということも含めてご議論いただくのが良いのかと事務局では考えています。

委員：今年の春、稲城の観光案内人という制度が出来まして、この会から私を含め2名の委員がそのメンバーに入っています。今は経済観光課が窓口になっているのですが、観光協会のようなしっかりした組織があった方が活動しやすいと個人的には思っています。

武藤部長：資料3のスライド9ページにあります。足立区の一般財団法人足立区観光交流協会などは観光の部分と交流の部分と一緒にいるかなり大きな組織とお見受けします。このような形も最終的な形の一例になるかと思えます。

委員：昨年から話されていることなのかもしれませんが、市としてこのようなことをしたいからこの事業をやると楽しいといった目標があると思います。今日突然、事業内容や組織のアイデアは何かないかと言われてもなかなかイメージが湧きません。私は会社人間だったので、このようなことをやるにあたっては、大きな目的、目標があり、それを達成させるためにどのくらいの範囲で、いつまでにやる必要があり、そのためにはこのような事業が良いという形を描いて進めていくのですが、今回突然このようなかたちで交流事業をどうするのかの質問に驚いています。今日、ここに来る前に自分でもインターネットで調べてきたのですが、例えば予算のこともあるでしょうし、出来ること、やりたいこともあるでしょうし、府中市や東村山市のような比較的規模が近い自治体のところに行って、どういふ予算でどれくらいのことが出来て、本当はこのくらいのこともやりたかったが出来なかったなど訊くことも一つの手ではないかと思えます。

武藤部長：今回は議論をどのくらいまでやらなくてはならないのかという風呂敷を大きく広げたという形です。そのため、今委員からありました色々な近隣自治体のケースをこれから皆さまにご提示させていただく中で、身の丈に合うのかという視点からつめていったり、理想の形を出していったりなど、これから議論の筋道をつけていければと考えています。

委員：資料4の事業内容の部分で「他市は、国際化事業を一緒に実施している例が多い」とありますが、基本的には国際化事業を狙って異文化交流をどうやるかというのが大切だと思います。基本的には1つのターゲット・目的を具体的に個々にどうやっていくかだと思います。例えば、国際理解という目的についても他の交流事業と関係がないわけではありません。しかし、それぞれにその目的を分担して、例えば語学についてはどうだ、などと分けて考えるのは困難と思うので、組織の中で分野を決めているのが良いと思います。また、身の丈に合ったという視点の話については、広範囲に渡って他市の事例を我々も調べていけないと思います。その中でどのように分担して手掛けていけば良いか考えていけば良いと思います。多摩市や府中市は国際交流協会が1つの団体として実施していま

すが、そこの中で共通する役割はあると思います。やはり全ては出来ませんので、例えば今は出来ないけれども語学については分けるとか、交流事業についてはどうか、理解講座についてはどうか、そういうような形で分けて考えれば良いと思います。最終的には全部まとめたものが出来れば良いのですが。

また、先ほどの姉妹都市・友好都市の定義について話がありましたが、国や都市によって色々考え方が違って、例えば、中国の場合は、姉妹都市は存在せず、全部友好都市としています。名称が違っていても実質的な内容はほとんど同じというケースが結構あります。それぞれにその団体でこれが良いと思ったものを行っているという状況です。

副委員長：話の整理としては、今回は海外・国内ということですが、海外については資料5のとおり提言が出ていまして、その中の3ページに想定される交流事業というのが、出来るかどうかは別としてイメージ的にはこういうものがあります。国内については、3都市の姉妹都市・友好都市があつて実績としては列挙されているものがあります。そういったものを運営するための、組織の仕組みづくりをどうするかということに着眼を置かないと事業内容を最初からやり直すような話になってしまいます。今までの何年間の方向性を踏まえて話を進めない大変だなと思って聞いていました。文章を読み込む必要があると思います。

また、大変素朴な話ですが、仮称とはいえ「姉妹都市・友好都市」を「・」でくっつけるのか、「姉妹・友好都市」とするのか、姉妹都市と友好都市を並列で並べるのはどうなのか、あまり聞かない気もしますので、そのようなことも含めて議論が楽しいように進めばと思っています。

委員：「姉妹都市・友好都市」という書き方が議論をミスリードするのです。私も初めて見て、姉妹都市と友好都市は違うものだろうと感じました。

委員：フォスターシティ市には同じような交流協会があるのでしょうか。ないとすると現在は自治体同士の直接の関係になっているということでしょうか。

武藤部長：国内については稲城市に対して協会を設立しているところはありません。海外のフォスターシティ市についても正式に締結はしていませんので、まだ向こうは組織化していません。しかし、締結がされれば、向こうでも法人化をしてそこが中心となって交流を行うという話は聞いております。

委員：府中市に22年間住んでいたときに、合唱団として向こうに行ったことがあります。その時は、府中市の交流協会がまだ設立されていなくて、合唱協会が企画して府中市に協力をお願いし、ウィーンのやりとりは府中市が直接やっていました。先方には、日本人と結婚して日本語が上手な現地の女性が府中市の連絡員という資格でいましてずいぶん面倒を見てもらいました。その後、交流協会が府中市に設立されましたが、ウィーン市側には出来たかどうか分かりません。

委員：日本は市町村や都道府県の行政主導の交流・支援が多いのですが、欧米では、どちらかというと教会であったり、市民ボランティアが中心となって交流をしています。私は都庁の外国人相談をしていて、「都庁がここまでするのは、なんて親切なんだろう」と思っていました。稲城市に、NPOなりボランティアなりでの市民レベルの交流協会があるのかお聞きしたいと思います。

武藤部長：フォスターシティ市では、正式に稲城市と締結してからNPOのような法人の立ち上げに

向け検討に入ると伺っています。

委員：それが完全に両方とも立ち上がれば市が介さなくても出来るということですね。

武藤部長：そうです。そうしたスケジュールも見据えて我々も進めていきたいというところです。

【議題2】事業内容等について

委員長：それでは、議題2『事業内容等について』、事務局より説明をお願いします。

柴田課長：姉妹都市・友好都市との交流として実施されている他市の交流協会の事業の内容例としましては、先ほど、資料3で触れさせていただきました内容となります。スライドの9、10でございます。ほぼ全ての団体で実施されているのが、海外姉妹都市への高校生のホームステイ派遣及び受け入れ事業で、一部は中学生野球大会や市民の交流事業実施に対する補助金の交付などを実施しています。また、区部の方では、姉妹都市・友好都市との交流以外にも、在住外国人の支援、国際理解・啓発事業をやっていたり、また、観光事業と一体の組織で姉妹都市・友好都市交流事業を実施している例などがあります。昨年度の海外姉妹都市検討市民会議では『「稲城市が姉妹都市と、こんな交流事業をしているんだ」と自慢できるような事業ができる」と良い』という意見もございましたので、是非、皆様から、交流協会として、こんな交流事業をしたら良い、というご意見をいただければと思います。また、先ほど副委員長の方からございましたが、2年間かけた海外姉妹都市の検討について資料5の3ページの部分になりますが話し合いの結果、こういった内容が良いのではないかとこの部分もございましてこちらもご覧いただけたらと思っております。

委員長：説明ありがとうございます。交流協会としてこんな事業を実施したら良い、というアイデア・ご意見ございましたら挙手をお願いいたします。

副委員長：今回は海外と国内ということで、国内の方は具体的な交流が現実に何年も大空町とはやっていますし、私は元芸術文化団体連合会の会長ですので毎年行ったり来たりしています。野沢温泉村も学校関係でしっかり交流がありますし、相馬市は相馬市でまた違うチャンネルの交流があります。国内は形としては出来ていますが、海外の部分が若干ボーっとしている状況です。そういったことも踏まえたしっかりとした推進の組織をどう作るかというのも鍵だと思います。海外との姉妹都市交流事業が難しい議論になっているのは、表現が適切かどうか分かりませんが、よくあるのは恋愛関係で交流がスタートして「この事業」や「この縁」とか切り口が明確になっているのですが、今回の場合はお見合い的な要素があるので、若干抽象的というところがあり、その部分をつめる必要があると思います。組み立てとしては、国内は比較的形があるので、整えやすいと思っはいるのですが、もう一方ではせっかく国内との関係もある協会ならば観光との絡みを加え、何かコラボなどで、ユニークなもの出来ないのかという思いもあります。稲城経由で野沢温泉村と交流というのも良いだろうし、稲城経由で相馬市と交流というのも良いですし、せっかくですから組み合わせのことも何かプログラム化出来たら面白いと思います。

委員：今回初めて参加させていただき分からない部分もあるのですが、フォスターシティ市との交流事業については、平成27、28年度の会議の提言書で教育交流やスポーツ交流が挙がっています。今日の議題は、その他に交流事業の提案がありますか、そういう意味でしょうか。

委員長：設立準備会の会自体のテーマが将来交流協会を設立したときの事業内容、運営方法、組織体制等について提言をあげていくことですので、その中の1つとして、事業内容について今までの検討の経緯を踏まえていただきながら新しいご意見があればご提案いただけたらと思っております。

委員：商工会には商業と工業と建設の部会があります。特に工業というのは交流したら面白いと私は思っています。交流事業というのは教育、スポーツ、文化、観光など色々ありますが商工会という立場で言わせてもらいますと最も具体的に進めていただきたいのは工業です。

委員：都市間交流は要するに人の交流だと思います。特に若い人の交流はすごく大切だと思います。色々見て視野を広げていくことは大切です。一方、もう1つの交流として、シニア層の交流というのが今出てきているのでそういう交流があっても良いと思います。しかし、あれもこれもと初めから実施するのは無理ですので、何か1つに絞ってそこからスタートし、最終的には稲城は魅力的な町だから、住んでみたいというようにもって行けたらとても良いと思っています。ただ、まずは今までに検討していただいていたスポーツを中心とした青少年交流を考えていくと良いと思います。私がボランティアでかかわっている AFS では日本の高校に留学してきている留学生を稲城第六小学校にお招きいただき、1日学校生活を体験し、留学生は自国紹介、児童は「よさこい」を披露してくれ、共に給食をいただき、多摩川の清掃を経験させていただいたりして、1日交流をしていました。スポーツ交流で来日する子どもたちに学校生活を体験させたり、観光協会と協力して案内してあげると良いと思います。

委員：稲城第二小学校の放課後子ども教室で生徒の面倒を見ているのですが、アメリカ、アジア、中国の小学校から子どもが来て交流をしています。子ども達の国際性を豊かにするという面でものすごく良い活動だと思っています。あれは教育委員会でやられているのですか。

委員：稲城国際交流の会さんが実施なさっています。

委員：稲城国際交流の会にも来ているのですが、今、オリンピック関係でどのような国が世界にあって、その人たちはどのような生活をし、日本と関係を持ちたいか等を授業のなかで外国人を呼んでみんなとお話をしましょうという事業が来ています。それは非常に有効だと思います。

交流といっても色々な交流がありまして、例えば国際理解を1つの目標という形で設定し、担当する人を置いたりすることも考えられます。英語を学校で勉強してもらおうといったことも国際化という中では結構大きな比重を占めており、専門的に担当してやっていただくことも考えられます。その中でも中核となるのは日本語を外国人に教えるということでありまして。協会を作るのであれば、そういったことを協会を担当してやっていただくのが良いし、私はそのようにお願いしたいと考えています。

現実には中央文化センターのなかに「稲城日本語ボランティアの会」というのがありまして、外国人がそこにきて日本語を教えてもらって地域の活動や生活に役立ててもらおうといった状況があります。例えば、そのようなことも語学という視点で、ターゲットを考えると、大きな自治体では韓国語、中国語なども教えている例があります。そういったことが出来れば、外国語を習いたいという人は結構いるので協会として宣伝すれば観光として

も有効だと思うのです。

「日本語ボランティア養成講座」は当初、稲城国際交流の会の中でやりなさいという話でしたが、現実的には公民館の主催事業になってしまい弊害が出ています。例えば、稲城国際交流の会で外国人を学校に呼んで国際交流がしたいという話になった場合、現実として稲城国際交流の会の方では「日本語ボランティア養成講座」を通じて外国人を紹介してもらうことが出来ずどうやって確保するかという話になってしまいます。

組織がばらばらになると効率が悪くなることもありますので、1つ国際交流協会のような団体を作ってそこで全てやるというようにしていただくと非常に心地が良いと思っています。それが出来ないので稲城国際交流の会で手当たり次第とかやってはいるけれども、本来行政がちょっとでも参画してくれればと思います。他にも市の外国人転入情報を教えてもらえれば助かるのですが、市からは「個人情報については一切教えない」というルールで教えてもらえません。転入外国人の方も色々なかたちで日本人の中に溶け込んでいきたいと思っても、なかなか上手く出来ていない状況です。それが1つの協会ですとまとまればお互いにプラスになります。そういったことをお金をあまりかけないで上手くやれば発展させることは出来ると思います。まずは、将来的には交流協会は何をする団体ということかをまず決めて、発展させていけば良いと思います。具体的に言いますと、我々の稲城国際交流の会で国際化事業についてはずっとやっては来ているのですが、携わっている人の高齢化もあり難しい部分も多いので交流協会みたいなものができればそこに合流してやることも良いと思っています。

委員：事業内容として何か提案がありますかという質問でしたので、提案させていただきました。具体的にどうするかは次のステップで詳細検討していけばよろしいかと思います。

武藤部長：今いただいたご意見も重要だと我々も思っています。要するに協会がコーディネート機能を持つのがベストなのかと思います。活動したい人の情報を持ち、そこを使いたい人の情報をつなげてあげるといのが協会に求められており、そういった組織の機能が必要というのは、今いただいたご意見からあると思いました。

委員：先ほど府中市とウィーン市の交流の話をしました。私が稲城で立ち上げた合唱団は最高齢85歳、一番若い人で62、3歳です。時間とお金は皆さんそこそこお持ちだと思うので、演奏旅行に行きませんかとか声をかければ半分くらい集まるのではないかと思います。実際に具体化するには、向こうサイドの受け入れ体制が整っていないと実現は難しいでしょう。演奏会場をどこにするか、宿泊場所はどうするか、受け入れてくれる合唱団があるかなども考えなければいけません。また、フォスターシティ市は観光地ではありませんので、ついでに観光していくプランを立てられるかも重要です。他の色々な活動しているグループにも同じことは言えますので、観光的な要素でどういうルートが作れるかは検討する意味はあると思います。

武藤部長：フォスターシティ市のことを少しご紹介いたしますと、サンフランシスコ空港のすぐ近くにありまして、カリフォルニアというロサンゼルスかサンフランシスコと言われていますが、サンフランシスコからかなり近いところにあります。シリコンバレーやスタンフォード大学が非常に近いです。シリコンバレーまでは車で30分くらいであり、また、サンフランシスコへも車で30分くらいなので、ちょうどシリコンバレーとサンフランシスコ

の中間くらいです。さらにサンフランシスコを越えて行けばワインで有名なナパバレーなどもあります。いわゆる北カリフォルニアのかなり中心的な場所にありますので、便利でハイウェイで行けば空港まで15分で行けます。観光的な利用も出来ます。実はフォスターシティ市はシリコンバレーに勤めている日本人の方もお住まいになっていまして、是非、子ども達にはシリコンバレーを見て世界の中でどんなことが起こっているのかを感じていただくと非常に刺激になると思います。フォスターシティ市自体は稲城市と同じベッドタウンで、周りにあるたくさんの資源を含めて考えると非常に利用できる場所だと考えています。先ほどの商工のお話も北カリフォルニアで考えればたくさんの交流が出来ると考えています。

副委員長：国内については既に色々な活動があるので、その活動の所管部署や概ねの予算額等について次回の会議までに洗い直してもらいたいと思います。その上で、それら事業を交流協会の事業とするのかしないのかを含めて検討するのが良いと思います。今回は事業や組織や運営など立体的なものを議論しなければなりません。運営の部分で独立採算制と簡単に言われても皆さん困ってしまうと思いますし、職員をどうするか、予算規模も分からないなど、全部にリンクしてくる話だと思います。

委員：冒頭にありましたように事業内容、組織体制は大事だと考えます。先ほども申し上げましたが成功している自治体にヒアリングさせていただければ、その中からヒントが出てくるのではないかと思います。3回の会議で決めるのは難しいと思っていたのですが、次回までにヒアリングすることはできますでしょうか。

武藤部長：こちらでお調べしてこういった事業や予算規模でどういうふうな人をつけてやっているのか、そのような協会自体のスキームが分かるような形で紹介していきます。

委員：失敗事例も含めてほしいと思います。そういうところから実施しやすいものをひねり出していくしかないと思っています。時間との戦いですから、意見を言うだけでなく、私自身も市民代表として一緒に他市の聞き取り等の調査に協力していきたいです。

委員：杉並区や中野区というのはすごく在留外国人が多いのですが稲城市にはどれだけの方がいらっしゃるかが分かりません。国際交流という部分で「支援」にもっていくのか、「交流」にもっていくのかが分かれてくると思いますが、今議論しているのは両方だと思います。将来、稲城にたくさんの外国の方が住んでくれば、支援という話にもなっていくと思うのですが、今はそこまでの人数はいないですね。

武藤部長：在留外国人は1000人程度です。在住外国人は今年の4月1日現在での情報ですと1100人程度。国はやはりアジア系が多く、中国人が一番多くて280人。韓国の方が100人。フィリピンが160人、後はアメリカが30人、ベトナムが25人、タイが24人、インドネシアが19人となっております。

委員：「支援」か「交流」かどちらかに絞ってスタートするのが良いと思います。生活支援であったり事業であったり交流を最初から一緒に実施するのは難しいと考えます。

委員：先ほど観光協会の話をしてきましたが、観光協会の会員というのはメリットがある企業が入ってくることが見込めますが、交流協会だとそのようなことがないので、会費等の運営が非常に難しいと思います。

委員：フォスターシティ市が我々にやっていただきたい教育交流やスポーツ交流ですがもう少し

内容を絞れているのでしょうか。

武藤部長：スポーツ交流は主に青少年の野球やサッカーです。女の子はサッカーが中心、男の子は野球が中心でやられています。小学校が3校、中学校が1校ありまして駐留されている日本人もかなりいますが交流はネイティブとやった方が良さだろうというお話も多く、スカイプのようなインターネットの交流であるとかグリーンティングカードのやり取りであるとかそういったことから始められると考えています。特に向こうの教育委員長が交流に関して非常に乗り気です。

委員：そういった交流を実際に実施している自治体に手法等を聞くのが一番早いです。

武藤部長：なお、フォスターシティ市はサンマテオ市から分かれた自治体でサンマテオ市にある沼地を埋め立てて作ったのがフォスターシティ市です。そのフォスターシティ市の隣のサンマテオ市が似たような交流を大阪の豊中市ともう10年以上されていますので参考になると思います。

委員：どういう交流をされているのですか。

武藤部長：野球の交流は隔年で行き来しています。そのため行くのも来るのも4年に1回くらいです。

委員：野球が終わった後、観光などもするのですか。

武藤部長：大阪なのでそのまま大阪観光をしますし、向こうに行ったときも観光をします。フォスターシティもそのあたりをかなり意識されていると思います。

委員：観光協会もタイアップしているのですか。

武藤部長：稲城市の観光というとよみうりランドがありますし、また、先ほど委員からもありましたようにお祭もたくさんあるのでそういったものに参加することも考えられます。

委員：議論の間口が広いこと、また、新しい委員の方が多くことから、このような議論の進め方では会議を何回やっても、結論はまとまらないと思いました。具体的にどうしたら良いかという、せつかく委員長と副委員長が選ばれましたので、お二人が中心となってこの進めるべきスケジュールとか組織とか運営、スキームを事務局と相談して、ざっくりで良いのでたたき台を作って次回それを出してそれに対し意見を言うのが良いと思います。ベースがないと、話があちらこちらにいつてしまい、前のことがわからないから新しい人が遠慮してしまうなど、そういったことの繰り返しになってしまいます。たたき台はざっくりしたもので結構ですので「これは後回しにしよう」とか、「海外はわからないから脇においておこう」とかそれで良いと思います。そうした方が皆さん個々に意見が言えるけれども、今のままだとそれぞれが違うことを言っているので取りまとめる方も大変だと思うのです。

委員：仰るとおりです。私も意見を言うだけでなく、時間があればたたき台の作成にも参加させていただきたいと思います。

委員長：今日は色々ご意見いただいたので、次回に向けては、たたき台等、資料の整理を事務局とともに進めていきたいと思います。

副委員長：今、委員からお話がありましたので、ざっくりですがそれこそ鉛筆で消せる範囲のもですが事務局と相談していきたいと思います。何しろ皆さんのお知恵をいただいきたいと思いますのでよろしくお願いします。

【議題3】 次回の開催について

委員 長：それでは、議題の3『次回の開催について』、事務局より説明をお願いします。

井田 係 長：次回、第2回の会議ですけれども、11月上旬での開催を考えています。議題としましては、今、お話いただいた素案を事務局から委員長、副委員長にご提示して進めてまいりますので、よろしく願いいたします。

＜調整の結果、11月8日（水）、9日（木）のいずれかで開催予定＞

委員 長：何かご質問のある方は挙手をお願いいたします。

＜連絡・質問なし＞

委員 長：それでは、これで第1回稲城市姉妹都市・友好都市交流協会設立準備会を終了いたします。